

J Aみやぎ仙南自己改革工程表

J Aみやぎ仙南は「農業者の所得増大」「農業生産の拡大」「地域の活性化」を基本目標とする創造的自己改革の実践に全力で取り組んできました。

これまで自己改革として、第6次中期経営計画(第6次営農Vプラン)や第7次中期経営計画(第7次営農Vプラン)に基づき、営農面においては園芸部門における機械化一貫体系の整備を進め新主力作物となる玉ねぎを中心に作付面積を拡大したほか、新農業倉庫やカントリーエレベーターを建設し、利便性の向上と効率化によるコスト削減、肥料銘柄の集約による生産資材価格の低減などの取り組みを進めてきました。

また、平成30年から令和元年に実施した「J Aの自己改革に関する組合員調査」等においては、多くの正組合員から、一定の評価と自己改革への一層の期待、多くの准組合員からは、総合事業の必要性や地域農業を応援したいとの声をいただくことができました。

今後とも、J Aみやぎ仙南は、地域になくてはならないJ Aであり続けるため、自己改革の実践を支える持続可能な経営基盤の確立・強化とともに、組合員との徹底した対話を通じ、総合事業を基本として「不断の自己改革」に取り組めます。

自己改革を実践するための具体的な方針【下線項目はKPI設定】

- 1 訪問活動を通じた「担い手との対話」を原点としてニーズを的確に把握します。
- 2 「農業者の売上増加・コスト低減」につながる担い手目線で必要な取り組みについて、目標及び実践具体策の策定等とあわせて実践し、改革の目的である「所得増大」を実現するほか、「地域の活性化」にも取り組みます。
 - ・担い手経営体や中核的担い手などを対象として、次のことに取り組めます。
米フレコン出荷の拡大
 - ・中核的担い手や多様な担い手などを対象として、次のことに取り組めます。
加工品・業務用野菜の生産拡大
 - ・必要とする全ての組合員を対象として、次のことに取り組めます。
大型規格農産物の普及拡大
 - ・「地域の活性化」に向けては、次のことに取り組めます。
ア. 7地区支店協同活動、イ. 女性大学、ウ. 女性部・青年部食農教育活動
- 3 改革の取り組みと成果について対話等を通じて評価を把握し、次の改革につなげることで、PDCAサイクルを回し、不断の自己改革を着実に実践します。

自己改革の実践に向けた組合員の意思反映

自己改革の実践にあたっては、改革の評価の把握に向けた正組合員との対話や組合員懇談会のほか、各種組合員組織や生産組織等における意見交換、地域に根ざしたJ Aを目指した准組合員モニター制度や准組合員加入時におけるアンケートの仕組みを通じて「正組合員とともに、地域農業や地域経済の発展を支える組合員」である准組合員の声も聴くことで、正組合員と准組合員が一体となったJ A運営を実現します。組合員の評価を踏まえながら必要な見直しを行います。

また、農業振興の応援団でもある准組合員の事業利用にあたっては、正・准組合員の利用状況を把握したうえで、改革の目的である「農業者の所得増大」につながるよう取り組みます。

自己改革を支える経営基盤の確立・強化の取り組みについて

管内の人口動向は減少傾向にあり、少子高齢化が進展しております。農業経営体は5年前と比較すると全体として2割程度減少していますが、法人経営は1割増加しています。農業生産額は令和元年の台風被害により一時的に減少しましたが、平成26年度以降上昇傾向にあり、令和3年度末におけるJ Aみやぎ仙南の販売品販売高は79億77百万円となっています。

こうした情勢のなか、J Aみやぎ仙南として現状のまま事業改革を進めなかった場合の5年後の成行きについてシミュレーションを行ったところ、5年後には現状と比べて事業利益が大幅に減少する見通しとなりました。事業利益減少の要因はJ A全体の収支構造にあり、事業総利益の減少ペースが事業管理費の減少ペースを上回る見通しとなっています。事業管理費の削減が限界を迎える中、もう一段の費用削減に向けた検討が求められるとともに、全ての事業において事業総利益の維持・拡大に向けた取り組みをすすめる必要があります。

経済事業の強化による事業伸長や効率的な事業運営を通じた費用削減により、健全で持続性のある経営を確保することが緊急の課題となっています。

J Aみやぎ仙南自己改革工程表（数値編）

重点目標

成果指標・目標値

農業者の所得増大・農業生産の拡大

米フレコン出荷の拡大を通じたコスト低減

対象者：担い手経営体や中核的担い手など **想定** コスト低減効果

令和3年度 実績 6,471 t 30kgあたり122円

令和4年度

目標

6,600 t

農業機械化一貫体系による園芸生産面積の拡大

対象者：中核的担い手や多様な担い手など **想定** 売上増加効果

令和3年度 実績 5.76ha(玉ねぎ) 10aあたり販売金額300千円

令和4年度

目標

6.5ha

大型規格農薬の普及拡大によるコスト低減

対象者：必要とする全ての組合員 **想定** コスト低減効果

令和3年度 実績 1,878ha 10aあたり100円～500円

令和4年度

目標

2,870ha

地域の活性化

農業振興の応援団の拡大

令和3年度 実績 各種イベント参加 延べ 2,055 人

令和4年度

目標

各種イベント参加 延べ 2,100 人

経営基盤の確立・強化

事業管理費の圧縮に向けた不稼働資産の流動化

令和3年度 実績 売却・賃貸等による土地・建物の流動化 3件

令和4年度

目標

固定資産売却等の公募実施
売却または賃貸等による流動化3件以上

対話・意思反映

項目	令和3年度 計画	令和3年度 実績	令和4年度 計画
正組合員への個別訪問件数(人数)	12,775人	9,946人	11,000人
准組合員加入時アンケート(回収率)	回収率90%	回収率81.4%	回収率90%
准組合員モニター制度(意見提出人数)	70人	60人	70人